

令和7年 第4回芦屋町議会定例会 一般質問通告書

氏 名	件 名	要 旨	備 考
松岡 泉 [一問一答方式]	1. 大雨の防災対策について	<p>今年8月9日から12日にかけて町は大雨に見舞われ、土砂崩れや床上浸水等の被害が山鹿地域や栗屋区などで発生した。</p> <p>町は防災対策を推進しているところであるが、近年の異常気象を勘案すると、安心できる状況ではない。</p> <p>(1) 今回の大雨による被害状況について</p> <p>(2) 大雨による山鹿地域や栗屋区の災害対応について</p> <p>(3) 近年の異常気象に対する防災対策の強化について</p>	
	2. 「ひきこもり」支援について	<p>「ひきこもり」の状態にある人は、2022年度の調査によると、全国で146万人である。「ひきこもり」は、個人の問題にとどまらず、社会全体に連鎖的に影響を与える大きな課題と言える。</p> <p>この課題の主体は町に義務づけされており、課題解決にあたっては町の支援施策の推進が重要となっている。</p> <p>(1) 町の「ひきこもり」の現状について</p> <p>(2) 支援の状況とその問題点について</p> <p>(3) 今後の支援の取り組みについて</p>	
川上 誠一 [一問一答方式]	1. 栗屋調整池からの浸水被害について	<p>8月10日の集中豪雨により、町が管理する栗屋調整池の水中ポンプが停止し越水した。これにより近隣の2事業所が浸水し、電子機器や工作機械に多大な被害が発生した。</p> <p>そこで伺う。</p> <p>(1) 町は調整池の管理者として、今回の災害の検証と管理責任をどう考えているのか。</p> <p>(2) 今回の豪雨やそれ以上の雨量に見舞われたとき、現在の排水能力で対応できると考えているのか。</p> <p>(3) 町長は今回の災害をどう捉えているのか。</p> <p>(4) 調整池の周辺が冠水後、国土交通省の大型排水ポンプ車を手配し排水できた。今後の自然災害に迅速に対応するため、町で排水ポンプ車を持つことを検討すべきではないのか。</p>	
	2. 芦屋基地及び周辺でのPFAS汚染について	<p>11月14日、福岡県は芦屋基地周辺の民家の井戸7か所のうち4か所で、暫定目標値の約2～11倍の値のPFASが検出されたと発表した。</p> <p>目標値を上回った4か所は前回調査でも超過しており、依然として地下水の汚染が進んでいることが確認された。</p> <p>県は今後も調査を継続し、基地に対して原因究明や対策を講じるよう、要請していくとしているが、基地は「現時点では回答できない。」と従来の立場を変えていない。</p> <p>町は今後、どう対応するのか。</p>	

令和7年 第4回芦屋町議会定例会 一般質問通告書

氏 名	件 名	要 旨	備 考
	3. 芦屋中央病院について	<p>10月27日、厚生労働省が医療法人の経営状況を発表し、2024年度決算で半数の病院が赤字であることが明らかになった。病院の経営状況をめぐっては、自治体病院の9割で経常収支が赤字となるなど、深刻な事態であることが問題となっていたが、政府公表の資料でも経営難が浮き彫りとなった。</p> <p>そこで伺う。</p> <p>(1) 令和6事業年度の芦屋中央病院の財政内容はどうか。</p> <p>(2) 芦屋中央病院の繰出基準に基づいた運営負担金はいくらなのか。また、そのうち地方交付税で財政措置されているのはいくらなのか。</p> <p>(3) 全国自治体病院協議会などは、自治体病院の持続的な運営と地域医療確保のため、診療報酬の大幅な引上げや地方交付税措置の拡充などを国に要望している。町としても要望することが必要ではないか。</p> <p>(4) 自治体病院の採算性が厳しく、約9割が計上赤字に陥る中、芦屋中央病院の経営収支が赤字となった場合、自治体が独自に行う繰出金についての考えはあるのか。</p>	
本田 浩 [一問一答方式]	1. 開庁時間の見直しについて	<p>役場の開庁時間は8時30分から17時15分となっている。自治体窓口を利用する全国の世帯数は、1999年以降共働き世帯が専業主婦世帯を上回り、総務省統計局の労働力調査結果では、2024年の共働き世帯数は専業主婦世帯数の約2.6倍になっていると公表されている。</p> <p>このような中で、地域住民の共働き世帯が町役場を利用する際に現状の開庁時間では、勤務する住民にとっては休暇を取得して役場に出向かないといけない。</p> <p>そこで、住民サービスの向上と職員働き方改革の両方を見据えた役場の開庁時間の見直しは検討できないか伺う。</p> <p>(1) 開庁時間について</p> <p>(2) 住民ニーズ調査状況について</p> <p>(3) 窓口利用の繁忙と閑散時間帯の把握について</p> <p>(4) 開庁時間の見直しについて</p> <p>(5) オンライン化・コンビニ交付の整備状況について</p> <p>(6) 開庁時間を変更した場合の町民への影響について</p> <p>(7) 試行期間（パイロット導入）の可能性について</p>	

令和7年 第4回芦屋町議会定例会 一般質問通告書

氏 名	件 名	要 旨	備 考
長島 毅 [一問一答方式]	1. ふるさと納税の現状と今後の方向性について	<p>芦屋町のふるさと納税は、過去には一定の成果を収めたものの、近年は寄附額の伸び悩みや競争力低下が見受けられ、制度を取り巻く環境の変化に十分対応しきれていない部分もあると感じている。返礼品の魅力、PR戦略、寄附者ニーズへの対応など、改善の余地は多く存在しており、町としてどのような課題認識と改善策を持っているのか明らかにすることが重要であると考え、以下の質問をする。</p> <p>(1) 寄附額の推移と現状について</p> <p>(2) 返礼品の拡充及び事業者支援について</p> <p>(3) ふるさと納税の広報・発信の強化について</p> <p>(4) 町長は、マニフェストや所信表明でも「財源なくして安心なし。財源確保による、未来ゆたかな芦屋町」を掲げておられるが、本町におけるふるさと納税を、やるべきことなのか、それともできればよいレベルのものなのか、どのように捉えているのか町長の見解を伺う。</p>	

令和7年 第4回芦屋町議会定例会 一般質問通告書

氏 名	件 名	要 旨	備 考
妹川 征男 [一問一答方式]	1. 二元代表制について	<p>議員であった貝掛氏が、執行部の最高責任者として、二元代表制のもう片方に就いたが、次の点を伺う。</p> <p>(1) 二元代表制の基本概念について</p> <p>(2) 二元代表制としての首長と議会の役割について</p>	
	2. 芦屋港のレジャー港化について	<p>平成31年3月に芦屋港活性化基本計画が策定されて、6年が過ぎた。この間、芦屋港のレジャー港化計画は様々な変更、追加、または廃止が生じている。私は当初より、芦屋タウンリゾート計画（玄海レク・リゾート計画の一環）が破綻した道を辿るのではないかと危惧し、予算が計上されるたびに、あらゆる角度から指摘し、また反対してきた。</p> <p>貝掛新町長のマニフェストには「この素晴らしい故郷（あしや）を未来へ紡ぐ」とした選挙・政権公約を打ち立てられた。その中に「海の魅力を最大限生かしたレジャー港化をこれまでの取り組みと成果を踏まえ、一歩前へ進める」とある。</p> <p>そこで伺う。</p> <p>(1) 芦屋港活性化基本計画に掲げられている内容とその変更について</p> <p>① 県の事業に関する係留施設、波除堤（魚釣施設を含む）野積場移設の事業費について</p> <p>② 町の芦屋港レジャー港化に関する設計・業務委託の項目及び総費用額について</p> <p>③ 芦屋港の管理運営に係る基本協定書の締結について</p> <p>④ 全国の地方港で、ボートパーク事業を県が主体となって管理運営を行っている港はあるか。</p> <p>⑤ 芦屋町が担う管理運営部分の施設について、どう進展しているのか。</p> <p>(2) 芦屋タウンリゾート計画が「頓挫した」要因について</p> <p>① 当時の議会や町民の動向はどのようなものであったか。</p> <p>② 「頓挫」した要因は何であったか。また、どのように認識しているか。</p> <p>③ 芦屋タウンリゾート計画が頓挫した結果、責任の所在及び損失はどのようなものであったか。</p> <p>(3) 芦屋港のレジャー港化計画は、芦屋タウンリゾート計画が破綻した教訓を生かしているか。</p>	